東大「メタバース工学部」狙いは

東京大学が23日、「メタバース工学部」を開設する。性別や年齢、居住地域に関係なく、インターネット上の仮想空間「メタバース」などで工学系の専門教育を受けられる「新学部」だ。どんな狙いがあるのか、東大工学部長・同大学院工学系研究科長の染谷隆夫さんに聞いた。

工学部長 染谷隆夫さんに聞く

ネット上で広く提供 DX人材育成

――「メタバース工学部」のねらいは。

社会では、DX（デジタルトランスフォーメーション）人材が求められています。東大には様々な教育コンテンツがありますが、定員などいろいろな制約がある。性別や年齢、地域に関係なく、広く教育を提供して人材を育成したい。ならばみんなでメタバースという世界に引っ越して、桁違いの数の人々が学べる新しい教育空間を創り出そうとなったわけです。「ダイバーシティ＆インクルージョン」がコンセプトです。

――特に女性に学んで欲しいそうですね。

理工系を専攻する女性の学生は、全国でわずか7％。その中でも工学は男性の世界という印象がまだ強く、学問の先端がどうなっているのか女性に広く知られているとはいえない。実際、東大工学部生の女性の割合は約12％です。昨年から全国の私立女子中高や公立高校を約20校訪問しました。理工系に進まない理由などをヒアリングして、工学系に進んだ後のキャリアのイメージがつかみにくいことがわかりました。

工学系といっても、情報やデザインなどの分野もある。学部や大学院での学び、就職、入社後のキャリアや家庭との両立まで思い描けるようメタバース工学部では「工学キャリア総合情報サイト」で産業界も巻き込んで情報発信します。

――国際社会と比較して日本の工学はどうですか。

DX人材の育成も欧米よりかなり遅れていますが、理工系の女性研究者の数が圧倒的に少ない。スタートアップで起業する例も少ない。東大発のスタートアップ企業は、毎年40社ぐらい増えて、現在は約480社。うち25社は株式上場して、トップ5社の時価総額は昨年1月時点で約1・5兆円でした。米国のシリコンバレーなどには及ばないですが、アントレプレナーシップ（起業家精神）の講座もメタバース工学部で提供します。

――社会人向けのプログラムもあるそうですね。

中高生には、「ジュニア工学」のプログラムを提供します。ただ、若者だけでは日本のDX人材不足は解消されません。社会人には修了証を出す複数回のコースを提供します。

――これからめざす工学部の姿は。

メタバース工学部は、いわば「工学部の拡張」です。私は半導体工学が専門ですが、かつては基礎的なことを研究していくのが大学の役割でした。でも、いまや社会課題の解決まで求められている。一方で、基礎研究の重要性は今後も変わりません。「知の泉」を枯れさせないためには、新しい役割は企業などと連携して、多くの人と一緒に担っていく必要がある。

メタバースは積極的に活用していきますが、技術はあくまで手段です。より多くの人に学びを提供し、社会課題の解決に挑戦する人を増やすことが重要。AIなどが人間に代わる時代だからこそ、人間の幸せや夢をどう実現するか、多様な価値観を持つ人と一緒に学びながら考えてもらえたらうれしいです。

（聞き手・編集委員　宮坂麻子）

東大「メタバース工学部」、狙いは　工学部長・染谷隆夫さんに聞く
（朝日新聞、令和4年9月6日、21面）

朝日新聞社に無断で転載することを禁じる　承諾番号：22-2634